

静岡放射能汚染測定室だより

第8号

2012年3月3日発行



イラスト 清重伸之

目次

- | | | | |
|-----------------|----|---------------------|-----|
| ■ 測定結果報告 | …1 | ■ お知らせ | |
| ■ 測定についての補足 | …2 | ■ 第8回『放射能を話そう♪』 | …6 |
| ■ 2月9日(木) | | ■ 測定室総会と小出裕章さんとのお話会 | …6 |
| 第7回『放射能を話そう♪』 | | ■ 測定器の充実検討中 | …8 |
| 報告と感想 | …3 | ■ 当室 測定器事情 | …9 |
| ■ 『静岡の娘へ』 | …4 | ■ 測定室活動日誌 | …9 |
| ■ 島田市の災害廃棄物(瓦礫) | | ■ プラムフィールドの窓 測定室の風 | …9 |
| 受け入れ問題経過報告 | …5 | ■ 新聞記事(全国の市民測定室) | …10 |

会員頒布用価格 1部 500円

測定結果報告 2012年1月11日～2012年2月7日

静岡放射能汚染測定室調べ 測定値の単位はベクレル/kg、()内の数値は検出限界値(単位はベクレル/kg)

・検体重量(g) ・NDは不検出 ・「↓」は検出限界値以下

	産地	食品名	重量(g)	セシウム134	セシウム137	合計
	秋田県	玄米(H22年産)	688	ND(1↓)	ND(2↓)	ND
	静岡県袋井市	玄米(H23年産)	617	ND(1↓)	ND(2↓)	ND
	埼玉県久喜市	いちご(収穫H24年1月初旬・水洗いへたを取る)	642	ND(1↓)	ND(2↓)	ND
	茨城県筑西市	玄米(H23年産)	592	ND(2↓)	ND(2↓)	ND
	北海道各地	てんさい糖(製造日H23年12月)	529	ND(2↓)	ND(2↓)	ND
	静岡県浜松市三ヶ日	みかん(購入日 H23年1月8日)	741	ND(1↓)	ND(1↓)	ND
	国内各地	こめ油(製造月H23年11月)	611	ND(1↓)	ND(2↓)	ND
	福岡県朝倉市	玄米(H23年産)	607	ND(1↓)	ND(2↓)	ND
	静岡県賀茂郡	白米(H23年産)	595	ND(1↓)	ND(2↓)	ND
	静岡県下田市	アシタバソース(製造日H23年3月25日)	662	ND(1↓)	ND(2↓)	ND
	宮崎県都城市	豚肉(白豚肩肉・加工日H23年11月)	732	ND(1↓)	ND(2↓)	ND
	福島県田村市	白米(H23年産)	622	ND(1↓)	ND(2↓)	ND
	静岡県三島市	豚肉(恵比寿豚の肩・もも肉 購入日H24年1月7日)	645	ND(1↓)	ND(2↓)	ND
	長野県上田市	米糠(H23年産)	221	ND(4↓)	ND(6↓)	ND
	山梨県富士吉田市	ミネラルウォーター(富士山麓の水・賞味期限H25年11月24日)	586	ND(1↓)	ND(2↓)	ND
	静岡県磐田市	干しいも(製造日H23年12月20日)	676	ND(1↓)	ND(2↓)	ND
	静岡県御前崎市	里いも(H23年11月産・水洗い皮付き)	552	ND(2↓)	ND(2↓)	ND
	静岡県賀茂郡	みかん(H23年産・水洗い皮付き)	669	ND(1↓)	ND(2↓)	ND
	埼玉県加須市	玄米(H23年産)	597	ND(1↓)	ND(2↓)	ND
	沖縄県	天日塩(H23年5月製造)	768	ND(1↓)	ND(1↓)	ND
	兵庫県	天日塩(H23年7月製造)	775	ND(1↓)	ND(2↓)	ND
	高知県土佐市	塩(土佐あまみの塩・H23年度産)	776	ND(1↓)	ND(2↓)	ND
	福島県福島市	玄米(H23年産)	598	5	8	13
	岩手県内各地	小麦粉(南部地粉・収穫H23年7月)	535	ND(2↓)	ND(3↓)	ND
	愛知県名古屋市	井戸水(採取日H24年1月下旬)	673	ND(1↓)	ND(2↓)	ND
	秋田県	りんごジュース(ストレート果汁100%・製造日H23年12月)	636	ND(1↓)	ND(2↓)	ND
※1	海外	粉ミルク(森永はぐくみ・製造日H23年2月2日)	383	ND(2↓)	ND(3↓)	ND
	静岡県榛原郡川根本町	緑茶(賞味期限H24年6月30日)	366	104	153	257
	静岡県焼津市	白米(H23年産)	640	ND(1↓)	ND(2↓)	ND
	埼玉県久喜市	トマト(収穫H24年1月28日・2度水洗い皮付き)	709	ND(1↓)	ND(2↓)	ND
	静岡県裾野市	ゆず(収穫H23年12月・2度水洗い皮付き)	618	2	3	5
	鳥取県	天日塩(製造日H23年7月20日)	648	ND(1↓)	ND(2↓)	ND

	産地	食品名	重量 (g)	セシウム134	セシウム137	合計
	静岡県静岡市駿河区	井戸水(採取日H24年2月1日)	550	ND (2↓)	ND (2↓)	ND
	静岡県静岡市清水区	緑茶(H22年産)	298	ND (3↓)	ND (4↓)	ND
	神奈川県小田原市	ほうれん草(収穫日H24年1月30日・2回水洗い根付き)	544	ND (2↓)	ND (2↓)	ND
	北海道	若鶏むね肉(加工日H24年1月22日)	766	ND (1↓)	ND (2↓)	ND
	宮城県	玄米(H22年産)	633	ND (1↓)	ND (2↓)	ND
※2	国内(主に静岡県)	加糖れん乳(製造日H23年9月22日)	805	ND (1↓)	ND (2↓)	ND
	北海道	豚ひき肉(加工日H24年1月24日)	622	ND (1↓)	ND (2↓)	ND
※3	長野県各地	牛乳(長野牛乳の農協牛乳・購入日H24年1月31日)	691	ND (1↓)	ND (2↓)	ND
	神奈川県小田原市	じゃがいも(収穫H24年1月30日・水洗い皮をむく)	591	ND (1↓)	ND (2↓)	ND
※4	静岡県静岡市葵区	緑茶(H23年5月5日産)	291	174	254	428
★1	静岡県静岡市葵区	※4の飲用茶(水出し・H23年5月5日産)	524	ND (2↓)	ND (2↓)	ND
★2	静岡県静岡市葵区	★1の茶殻(水出し後)	561	9	14	23
★3	静岡県内20%・海外80%	静岡県学校給食食パン用小麦粉(使用禁止)	496	ND (2↓)	ND (3↓)	ND
★4	静岡県内20%・海外80%	静岡県学校給食食パン用小麦粉(現在使用中)	417	ND (1↓)	ND (2↓)	ND
★5	静岡県内各地	牛乳(フクイ乳業「酪農おいしい牛乳」・賞味期限H24年2月2日)	579	ND (1↓)	ND (2↓)	ND
★6	静岡県西部地域	牛乳(フクイ乳業「遠州のめぐみ」・賞味期限H24年2月5日)	569	ND (1↓)	ND (2↓)	ND
★	福島県福島市	キャベツ(収穫H23年1月・2回水洗いし外葉を取る)	539	ND (2↓)	ND (2↓)	ND
★	静岡県静岡市清水区	いのしし肉(捕獲日H24年1月8日)	663	ND (1↓)	ND (2↓)	ND
★	静岡県駿東郡	牛乳(大庭乳業ビン牛乳・賞味期限 H24年1月25日)	616	ND (2↓)	ND (2↓)	ND

測定についての補足

★1 : 海外…ドイツ・オランダ・オーストラリア・ニュージーランド

★2 : 原材料…国産(主に静岡県)の生乳・北海道産ビートグラニュー糖。
パン屋が菓子パンに使っている製品。

★3 : 産地…長野市中条村、上水内郡信濃町黒姫高原・(同)小川村、小県郡長門町の原乳を一つのタンクに貯乳。長野市の学校給食に使用。

★印は、測定室の調査測定品です。

★1 ※4の茶葉12gを1リットルの水(当測定室の水道水)で12時間30分間抽出した飲用茶。

★2 ※4の茶葉120gを10リットルの水(当測定室の水道水)で12時間抽出した後の茶殻。

★3 H24年1月初めに、「食品添加物として無許可のリボフラビンの添加が判明し使用禁止となり、回収処分になった小麦粉。H23年12月配給分。

★4 ★3に代わり、H24年1月より使用中の小麦粉。

★5 富士開拓農協・夢咲農協・JAとびあ・掛川農協管内の原乳を使用。

★6 JA遠州中央(袋井・磐田・天竜)管内の原乳と、産地が限定されている。袋井市の学校給食に使用。

定量スペクトル
この波形はセシウムは検出されないレベルです。



■ 第7回『放射能を話そう♪』2月9日(木) 報告

進行：スタッフ 竹内せつ子 ・スカイプ部：浅羽愛 ・報告：スタッフ 伊藤美智代
参加者：7名（内男性1名）乳児2名 （会員6名、一般1名、スタッフ6名） スカイプ参加者 5名

寒さが少しゆるんだ9日、少人数でゆっくりと話
ができました。話題に出たことは、◎島田市の瓦礫
処理について◎食品の汚染、特に魚について◎子育てと放射能◎花粉と放射能◎家族の中での放射能の
話題（とくにパートナーと）など、暮らしと密着し
た話題が笑い声といっしょに話されました。

島田市の瓦礫処理については、みんなの関心も高
く、島田市からの参加者もあり、様々な想いが出ま
した。測定室からは、翌日10日に行う島田全域での
松葉調査（放射性物質の変化確認）についての説明
や測定室として測った食品（静岡県学校給食用パン
用小麦粉・野生イノシシ肉・静岡県西部地区学校給
食用牛乳など）の検査結果を報告しました。スカイ



プ参加者が質問に答えてくださるなどの連携プレイ
も！遠方の方も、是非、スカイプ参加してみてください。

◆ 参加者の感想

<報告者> 静岡市駿河区 スイス出身 S・Oさん

いつもの“話そう会“のように人があふれず、
こじんまりした落ち着いた雰囲気、足を踏み入れ
ました。暖かい、それでいて注意深く、集中し気
配りが漂う雰囲気です。その関心と集中力は、各
地からのスカイプ参加者からも伝わってきます。
刺激となる質問、経験談、感想や答えが行きかう
中、私がこの春に、横浜市（溝の口）に乳児を連
れて行くべきか否かを心配して話をすると、とた
んにスカイプの向こうからその町の正確な空間線
量を教えてもらい、その場で心配や悩みが晴れま
した。教えてくださった方にこの場をお借りして
感謝をお伝えしたいです。

この日の話題の1つはやはり、島田で瓦礫が燃
やされることでした。島田の方も参加していて、
「瓦礫の受け入れで、マスコミで取り上げられる
ものは極端な発言がほとんどで、そのせいで我が
町を守り、我が子を守りたい多くの人の冷静な声
が伝わらず、受け入れに反対する皆がヒステリー
を起こしているように写されてしまっている」と
話してくれました。市民で力を合わせても、なか
なか無力である現実を前にしても、落ち込んだ雰

囲気にはならず、「それでもやはり声を上げ続けま
しょう。今度の選挙で今回のような結果にならな
いようにしましょう」と前向きな姿勢をとる先輩
たち。心配に値する暗い現実をしっかりとらえた
上で、明るい心でいる・・・ここがプラムフィー
ルドのすばらしいところですね。

どなたかが言いました。「以前はもっと暗く思い
込みがちでしたが、ここに来るようになり、真剣
で暗い話題について考えたり話したりするよう
になったにもかかわらず（またはそれが故にこそ）
とても明るくなりました」と。

日常の生活では、放射能やいろいろな健康を脅
かす問題はなかなか話題に上りません。まるで、
触らぬ神に祟りなしかのよう。しかし残念な事
に、放射能は話題にしなければ消えていくもの
ではありません。

現実をしっかりと見届けながらもポジティブに、
愛情と夢を持って明るく生きていく人々が集まる、
国籍や世代を超えて人の出会う場としてもプラム
フィールドの存在は本当にありがたいです。いつ
も本当にありがとうございます。

震災の瓦礫が静岡にやって来てしまったね。お父さんは、この「瓦礫」という言葉はあまり好きではありません。震災の残したものの、「遺物」、だと思っています。この遺物の中には被災した人の思い出や、亡くなった人の心が、含まれているように思います。被災地の風景も・・・。

その遺物を広域で処理するという国の方針が示されているのですが、放射能という問題で受け入れ自治体住民の反対に合っています。お前たちも頑張っていることを知っているから、お父さんも静岡の環境調査のお手伝いをしています。前にも書いたけど、お父さんの出来ることは、いつも事が起った後からです。環境の放射能を測るということは、環境に放射能があるかもしれないという状況が生じているからです。お父さんにとっては嫌な世界なのですが、測れば何かが分かります。何もしないと何も分かりません。

遺物がゴミと一緒に燃やされ、灰は思い出の地から遠い場所にゴミとして捨てられる。この現実を理解しようとするのですが、でも心のどこかで引っかかります。涙もろいお父さんの感傷かもしれません。

遺物を有効に利用して人に役立つかもしれない方法の一つを毎日新聞（2012年2月1日）（<http://mainichi.jp/select/science/news/20120201k0000m040114000c.html>）の記事で見つけました。バイオ燃料に変換する方法です。これなら被災地の人も許してくれそうな気がします。



島田市で取材を受ける河野さん

こんなふうにしたらどうだろう。空想好きのお父さんの願望です。

被災地に小さな工場をいくつか建設し、遺物をバイオ燃料に転換します。工場の稼働によって生ずる放射性廃棄物は国の責任で保管管理する。遺物の処理が終わった後も、小さい工場なら間伐材などの有機資源を材料にして工場の運転を続けることが出来ると思います。

震災復興に協力するために行う遺物の焼却であるなら、ボランティアで処理に協力するのが本当だと思います。焼却をすることにより割高な処理費用を受け取るという話も聞きます。焼却場のある地区と受け入れ自治体の関係が、核のゴミが残る福島と電気を浪費する東京との関係に見えてきます。いつも弱いところへしわ寄せが・・・。お前たちは判官びいきだから苦勞も多いと思います。お前たちに、昔、おじいさんが引用したロダンの言葉を贈ります。

「深く、毅然として、誠実であれ。君がたの感ずる処が、たとえ世間一般の慣用の理念と正反対であるのが見出される時といえども、その発表を躊躇してはならない。恐らく先ず最初は、君がたは理解されぬであらう。だが君がたの孤立は遠からずして終るであらう。やがて味方が君方の許に訪れて来る。何故なら一人の人間にとって深い眞実であるものは、万人にとつても眞実だからである。」（「ロダンの言葉」より）

子供を大切に思っている娘へ

京都の父より



松葉の新旧(左上：新葉 H23、右下：旧葉 H22)

島田市に、焼却処分の関わる『放射能の移行・残留・処理能力』について、1月31日（火）に質問書（HPに質問状全文を掲載）を届け、お返事を待っていましたが、回答を得る前に島田市が試験焼却を2月16日（木）、17日（金）に行うと発表があったため、急ぎよ、試験焼却を行う前の環境放射能を松葉によって調査しようと、2月10日（金）、午後、島田市の焼却炉を中心に市内5か所と市境の1か所、対象サンプルとして静岡市内1か所の松葉採取を行いました。



島田市で松葉を採取する河野さん

松葉調査は、昨年8月末に静岡県内25箇所の調査を行った方法と同じように、1本の松の木に対して、2010年の松葉（福島原発時に枝についていた葉）と2011年（原発事故後、目を出した葉）の松葉を採取しました。

この松葉調査の目的は、試験焼却を行う前の環境放射能を知る事です。

そして、試験焼却が終わった後も、同じ松の木で松葉を採取して測定をします。

瓦礫の汚染値から考えて、試験焼却を行った事により放射性物質が飛散し、松葉の汚染が強くなる事は考えにくいですが、市民が測定を行い、継続した松葉汚染調査をする意味はあると考えています。

2月10日、松葉調査実施の記者会見の席上、Y新聞の若い女性記者さんから

「国が安全と言っている物をどうして測るのですか？」

「受け入れに反対している市民が測定して正確な測定が出来ますか？」

という質問を受けました。少しの間、質問の意味が理解できませんでしたが、測定室は松葉の測定をする事で、放射能がどの様に動き、瓦礫焼却によって起こるかもしれない何かを松葉の測定を通して観察をしていく・・・事を説明しました。そして、測定値は瓦礫の処分についてどう考えようと、不正確になるはずがない定量値であることを伝えました。

今回の調査について各社の新聞報道を見て、測定室の考えと活動に共感して下さる島田市議会議員の方が、2月17日（金）、わざわざ、測定室まで試験焼却をした瓦礫を測定のため持参して下さいました。瓦礫を測定して、結果をご報告する事をお約束しました。

この瓦礫をテレビ報道で観た方もあると思いますが、内容はご覧のように細かい木材チップです。



島田市で試験焼却された瓦礫の一部

「この状態の瓦礫なら、現地の山野で土に還す事は可能ではないでしょうか？遠方を運んでくる瓦礫は分別不可能で熔融炉で処理しなければならない災害廃棄物だと思っていましたが？」・・・と議員さんに伺いますと、しばし考えていらっしゃいました。

焼却後に残った灰を島田の最終処分場で管理することなどについても、意見交換をさせて頂きました。

2月10日の松葉調査に続いて、試験焼却後の松葉を採取した測定結果は追ってお知らせします。

災害地支援と環境に負荷を掛ける焼却処理・・・『日本人の優しさ』と言う心情的な問題とは根本的に違う問題だと私は思います。ゆっくりと議論する習慣を市民も、行政も持てることを願っています。

■ 会員さんからののお便り

★ふるさとの米・・・

静岡県在住 Y・K

栃木県日光市の白米（洗米後）の測定、ありがとうございました。

結果を日光市在の家族に伝えたところ「よかった！」と喜んでおりました。結果が出るまでは、丹精したお米をどうするか悩んでおり、「不検出」であれば、小さな子どももいない年季の入った家族が食べる分にはいいだろうと考えていたようです。検出されれば、周辺の土地から遮断された穴に「処分」する予定でした。悩みつつも米作りをせざるをえなかった家族、そして故郷を遠く離れた地で自然農の田んぼに携わるようになった私にとって、「処分」は辛い選択でした。「処分」されるお米は自然に還ることも出来ません。お米には何の罪もありませんのに。

日光市内では玄米で「不検出」（同位体研究所に依頼）の結果を得た農家もあり、できることなら玄米の「不検出」を願っていましたが、土壌の汚染と田んぼの立地条件を考えれば、そんな生易しいことなどありえず、検出されるであろう覚悟もしていました。ふるさとを思う気持ちと、厳しい現実とが私を苛み、苦しい日々でした。

洗米後の白米、つまり実際食する状態の白米は「不検出」といっても、玄米、洗米前の白米で検出されたという事実は大きく、コンマ以下の問題を抱えていることは逃れられない事実です。日光市在住の家族はそれでも、今年の春も、稲わらを処分し、施肥に注意を払い、丁寧にお米を育てていくそうです。環境への汚染も含め、全てのリスクを知った上での選択に、私はもう何も言えません。

以前は感傷的な考えばかりが浮かんで仕方なかったのですが、これからは私の出来ることをすればいいと思えるようになりました。震災前に私が出会って来た全てのことが、震災後の全てのことにつながっている、と不思議な縁を感じることも多くあったからかもしれません。

私は生まれ育ったふるさが大好きです。だから、私に出来ることが絶対あるはず！と信じてこれからは暮らしていきます。

本当にありがとうございました。そして、どうぞこれからも宜しく願いいたします。

★心に沁みこみました・・・

横浜市在住 N・S

今日はスカイプで参加できて、良かったです。自分がおかしくなりそうな毎日だったので、今日のスカイプ参加だけでも、人間味あふれる言葉がしみこみました。

まだ間に合うならも読ませていただきました。自分にできること、を考えて、そして楽しく過ごしていきたいです。

■ 現在の会員数

2月21日現在の会員数

特別会員	3人
団体会員	10人
会 員	126人
情報会員	96人
旧 会員	16人
合 計	251人

測定室よりお知らせ

「第8回、放射能を話そう♪！」～スカイプ参加も歓迎します～

日時 : 3月12日(月) 13:30～15:00
場所 : 静岡放射能汚染測定室(プラムフィールド)にて
会費 : 会員 300円
一般 500円(測定室だより第8号付)
内容 : 3・11から1年を振り返って、
今の気持ちを分かち合いましょう・・・



6月9日(土)、1周年記念の会を行います。素敵なひと時をお楽しみ下さい♪

『静岡放射能汚染測定室』の再開1周年総会と公開学習会開催。

- 会員総会は13:00～13:45
 - 公開学習会は14:00～16:00
- 初ビック・コラボ企画が決まりました。

＜小出裕章さんのお話と

ウォン・ウィン・ツァンさんのピアノ演奏＞

講師：小出裕章氏(京都大学原子炉実験所・当
測定室アドバイザー)

<http://hiroakikoide.wordpress.com/>

インタビュアー：ウォン・ウィン・ツ
ァン(ピアニスト・作曲家)

<http://www.satowa-music.com/profile.html>

会場は予約可能期日にならないので、決まり次第、
お知らせします。

この会では、事前に皆さんから小出裕章さんへの質問をお受けして、その質問をインタビュアーウォンさんが参加者の皆さんと小出さんのお話を共有しようという企画です。

どしどし、小出さんへの質問をお寄せください。

記念会終了後、参加者と講師、ゲストとの交流会(夕食会)も催します。

6月9日(土)は静岡にお越しくください。

遠方からの参加者の方には、ご希望により、午前に測定室の見学もお受けします。

測定機能の充実を検討中。

当測定室は、福島原発事故を受けて昨年6月に測定を開始しましたが、当時は放射能のホットスポットについても現状が分からない状態でしたので、測定を食品に限って依頼を受けて活動をしてきましたが、会員の皆さんの中より、食品以外の測定を要望する声を多く頂くようになりました。

- ・お子さんが通う幼稚園、保育園の砂場の砂
- ・公園の土
- ・畑に入れる腐葉土
- ・生産農家から畑の土

・山遊びをする山の土
・初夏に学校のプールの水 などです。
こうした環境放射能を測定する事も出来れば、より安心した暮らしが実現すると考えます。このため、現在、精度を高めた測定器の導入を検討しています。測定室スタッフは現在も全員無償のボランティア作業で運営していますので、皆さんから頂いた測定料を貯蓄しています。

まだまだ、購入額には満たない状態ですが、前向きに検討をしています。ご期待ください。

■福島の現地からのたよりを同封しました



当測定室会員で、『まだ、まにあうのなら』の著者甘蔗珠恵子さんより、紹介いただいた『原発事故さえなかったら』（福島のお寺のご住職が編集・発行）を同封させていただきました。

福島に住む人々の気持ちを直接、聴くことが出来ない私たちに声が聞こえるように感じます。

甘蔗珠恵子さんからは、

『まだ まにあうのなら』基金より、当測定室に多額の寄付を頂きました。こうした支援の寄付を有効に使わせていただき、測定機能を充実させていきたいと思っています。いつもありがとうございます。

■ブラムフィールド&測定室の 春休み ♪

ブラムフィールドは

3月29日(木)～4月4日(水)まで春休みを
頂きます。

測定室はその間、土を除いた～

29(木)、30(金)、4月2日(月)、3日(火)、
4日(水)の10:00～11:30 オープン～します。
よろしくお願ひします。

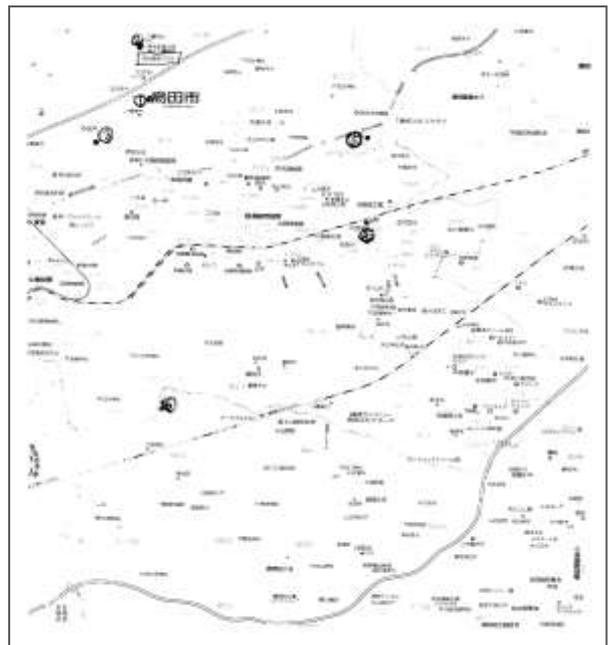
■島田の松葉による汚染調査を継続します

「試験焼却が終わり、島田市民と島田市がどのような結論を出すのか、私たちには分かりませんが、現在、試験焼却前の松葉の測定を行っている中で、アドバイザーの河野さんから焼却場の至近の松葉に少し数値が高い汚染が見られたとの、報告がありました。

他の採取場所の定量が出来た時点で考察をする事になりますが、環境放射能については1回の測定で結論が出せるものではありませんので、採取した松の木に近い島田市の方のご協力が得られれば、汚染調査を続けたいと思います。

今回の松葉による調査は、島田市の方から依頼があったわけではなく、私たち測定室が関心を寄せて行ったものですので、島田市の方の意見も伺いながら、調査を続けたいと思います。

皆さんからのご意見もお寄せください。



島田市内の松葉採取地点

福島第一原発事故により放射能が直接的あるいは流通的に身の回りに汚染が広がることにより、全国的に市民、行政機関、ストアなどで測定器を必要とすることとなった。測定器メーカーも核種分析ができ、操作性がよく、低価格のものも販売するようになってきている。

具体的な機種選定は、測定依頼者が何をどのレベルまで求めているのか、その妥当性や測定活動のすみわけをした上で、測定器を所有し運転しようとする者の懐具合との相談であろう。

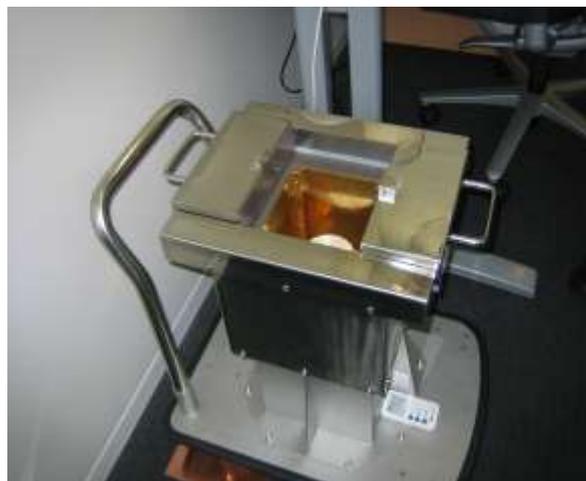
静岡で測定器の増設を検討するという事で、2月8日（水）上京し、メーカーのデモ機を視察した。静岡の測定器と今回見学した2社のデモ器（低価格と高価格）との比較であるが、基本的原理と基本構成は同じものである。NaI という透明固体にガンマー線が入ると発光し、その微弱な光をホトマル（真空管）で10万倍以上に増幅し、その後、信号処理・計算・表示・印字するという構成である。

静岡と高価格のものはNaIの大きさは標準といわれる3インチ、低価格の方は2.5インチである。同じNaI結晶なら検出効率は大きいほうが良いが、この大きさの違いはあまり選択上大きなことではない。使用部品に耐久性、高信頼性、高精度のものを使ったり、バックグラウンド低減対策に特別なホトマルを使ったり、特別な内張りなどを施せば、自ずと高価になる。



現在使用中の
測定器内部写真

機種選択では、性能や価格や据付面積のほかに操作性、メンテナンス・サポート体制などのソフト部分が問題となる。ちなみに静岡の測定器は、緊急メンテナンス体制と測定の度にカリ40のピークやその他の性能のチェックを行っている。



EMF社製最新機器

操作性は、デモ器は両器とも一体型のため、サンプルの出し入れは簡単で、測定器の運転や計算、調整などはコンピュータ操作によって一元的に行う。この操作は、マニュアル通り行えば良いので、現在、静岡で使用している測定器よりかなり簡略化されている。

メンテナンスやサポート体制は、購入する測定室で聞き取るしかないが、測定器本体とプログラムは、できれば国産で同一会社のほうが良い。本体が外国製で、ソフトが国産というのは、両社の提携関係が長期に続くという保障は何もないので部品供給など不安材料はある。

どんな高価なものでも、その機器の使用環境が良くなければ仕様通りの性能は出ない。センサー部は一番温度の影響を受けるようで、デモ器の説明社員も、測定環境の恒温化は、まず測定環境の前提としていた。

静岡の場合、今年の夏は空調設備がないため、測定の揺らぎの調整にかなり苦勞をした事を考えると、設置環境の整備は大きな課題だと言える。

(宛名)

測定室活動日誌

- 2月7日(火) 豊橋へ学習会講師として 馬場参加
2月8日(水) 馬場、渡辺、測定器デモ器の試測定
に上京
2月9日(木) 第7回 放射能を話そう♪
2月10日(金) 島田市の試験焼却前の松葉採取
(河野氏来静) 静岡県庁にて松葉に
よる環境調査実施の記者会見。
静岡新聞、静岡放送取
2月11日(土) ~
島田市の松葉、京都大学で測定開始
2月12日(日) 午前:町田市学習会講師として(馬場)
午後:横浜市瀬谷区学習会講師 (馬場)
2月16日(木) 測定室スタッフ会議
2月17日(金) ~27日(月)
測定室だより 8号編集作業
2月19日(日) ~22日(水)
島田市試験焼却後の松葉採取
2月21日(火) 東京新聞取材
2月22日(水) 島田市で瓦礫について市民懇談会
馬場、守屋参加
3月3日(日) 『測定室だより』8号発行

編集・発行：静岡放射能汚染測定室 事務局
〒420-0882 静岡市葵区安東 1-2-3 プラムフィールド内
TEL/FAX 054-209-2021 (月~金 10:00~16:00)
測定室 Ph 070-5034-0920 (月~金 9:00~17:00)
e-Mail ssokuteisitu@yahoo.co.jp
URL <http://sokuteisitu.plumfield9905.jp>

プラムフィールドの窓・測定室の風

島田市で瓦礫を試験焼却する事が決まり、島田市に届いた瓦礫の放射線量を空間線量計で測定している映像をテレビで見ました。

放射能汚染との付き合いが始まったばかりの私たち日本人は、どの様な測定器で何が測れるのかも、これから知っていくのでしょうか。

そういう私も、測定を開始したところ、測定室に届く試料に強い汚染があった場合、スタッフが被曝する事が無いように、届いた試料をガイガーカウンターで簡易測定をしようと考えていました。お恥ずかしい限りです。一キ^ロ当たり千Bq以上の汚染があっても空間線量は変わりません。今回の瓦礫の測定結果は不検出でした。詳細は次号で。

■スタッフ・守屋司子さんを紹介します。

南アルプス愛する守屋さんは、測定室の中でも一位二位三位を競う科学的に物事を見ることの出来る女性です。(スゴク貴重な存在!) 測定室の企画事業の時も全体を見回して、さり気なく気を配ってくれます。

この会報の編集も守屋さんが担当してくれているんですよ。ありがとう。「守屋さん、私は〇〇が弱いけど、お付き合いしたいです。」(さて、〇〇は何でしょう...)

宮本万倫子

■スタッフのつばき

放射能測定室スタッフではいちばんの新人です。態度がでかい新人ですみません。現在は主に、『測定室だより』の素人編集人として関わらせていただいています。本来は「自然を愛してやまない〇〇好きのおばちゃん」です。

何となく裏に気づいていながら、一部の財界上層の思惑に流されて生きるのそれはそれなりに楽だけれど、一度きりの人生だからこそ、「真実を知り、受け止め、自分の頭で考えて、生きたい」と思っています。知れば知るほど落ち込みますが、落ち込みでは立ち直りの繰り返し、スリルがあつて結構楽しい人生ですよ。

ジェットコースターが大好きな守屋司子

「市民測定所」各地に広がる

数値の説明 不安ぬぐる

2012年2月9日 五社新聞

食べ物などに含まれる放射性物質を独自に測定してくれる「市民測定所」が各地に広がり、不安を感じる人たちの受け皿になっています。ただ検査結果をどう伝えるか、苦悩もあるようです。各測定所の取り組みをみました。

結果の読み方丁寧に

含まれるセシウム134とセシウム137が半分に減るが、測定時点で原発事故から10カ月。半減期がヨウ素よりずっと長い放射能セシウム134、137も検出されていない。そのためヨウ素と似た反応をもつ別の物質を検出した結果だと判断できたからだ。説明を聞いてホッとした表情を浮かべた石川さん。「いくら大丈夫と言われても確かめないと安心できない。モヤモヤがクリアになった」

代表の石丸健支さん(39)はウェブサイトを制作し、子どもたちを放射能から守る全国ネットリーグへの参加がきっかけで、食品の測定所を開くことに。機器の扱い、結果の読み方はメーカーや先行する測定所に教養を請い、集中的に勉強した。

準備中のものも含め、少なくとも全国30カ所にある。寄付を募って測定器を購入したり、企業が事業として取り組んだり、運営方式は様々だ。多くが1台100万円以上の測定機器を使っている。

放射能と暮らし



市民測定所

主な市民測定所(○)	
道民放射能測定所	北海道当麻町
小さき花市民の放射能測定室	仙台市太白区
みんなの放射線測定室	「とことと」宮城県大河原町
CRMS市民放射能測定所	福島市
TEAM二本松	福島市
「市民放射能測定室」	福島県二本松市
いわき放射能市民測定室	福島県いわき市
「那須を希望の岩にしよう」プロジェクト	栃木県那須町
ベクミル柏店	千葉県柏市
たんぽぽ舎	東京都千代田区
「市民放射能測定所」	東京都分府市
静岡放射能汚染測定室	静岡県静岡市
放射能測定伊那谷市民ネットワーク	長野県伊那市
C-ラホ	名古屋市西区



井戸水の測定をする静岡放射能汚染測定所のスタッフ(静岡市駿河区)

昨年未だオリーブ。1検体3千円で土壌や食品の検査を請け負う。ただ一定割合で検出されるはずのセシウム134と137の値に大きな差が出るなど、説明がつかない結果が出ることもある。検査医師が似た別の物質を測定器が感知したなどの原因が考えられる。測定は30分が基本だが、こんなときは夜通しの長時間測定などによって、精度を高めるといふ。

検査結果は依頼者に直接知らせる。説明がつかないような数字が出た場合は、要項まで伝える必要があるからだ。説明が1人30分を越えることもある。石丸さんは、「こういう意味を持つ数字なのかを読み取ることが大切だと思います」と話す。

知識学び 情報交換も

静岡市の「静岡放射能汚染測定室」は、チェルノブイリ原発事故から2年後の1988年に主婦らがつくった「毒備」だ。この10年は活動を休止していたが、原発事故後に再開。15人にまで減っていた会員は、ロコモで全国2000人に増えた。

乳幼児を連れた母親がマンションの一角にある測定室をひっそりなしに訪れる。6カ月の男児を産む市内の女性22人も常連の一人だ。

福島の事故当時は妊娠中だった。「ただちに健康に影響はない」と繰り返す政府発表に不安が募った。おなかの子が病気になるのではないかと。インターネットで見つけたこの測定室に泣きながら駆け込んだ。

代表の馬場利子さん(58)は「すべての食材が危険というわけではない」と説明してくれた。食べたものと同じ産地の、同じ食品が汚染されていないか、測定を依頼。問題ないこともわかった。

学校給食は安全か。行政の調査をどこまで信じていいのか。1。問い合わせや悩み相談が絶えないため、測定室では昨年7月から放射能について学び、情報を交換する会を毎月開いている。8月の会では、測定室のアドバイサーを務める京大大学院の放射線計測の専門家、河野桂次さん(58)が、集まった約50人の質問に答えた。

年が明け、参加者は20人ほどに落ち着いてきたが、参加者がゼロになるまで続ける。馬場さんは「ここは現代の井戸端会議所。放射能の知識がないまま不安と孤独に耐えてきた母親たちがつながり、安心を得ています。そこに必要なのは正しい知識です」と話す。

(小林未実 斎藤二郎)